

テーマNo.1	豊かな国と貧しい国、豊かな地域と貧しい地域の違いから学生たちが学べるべきこと。
内 容	世界には多くの国々があるが、豊かな国もあれば、貧しい国もある。スイスは約200年前まではヨーロッパで最も貧しい国の一つだったが今は世界トップレベルの国に変わっている。一方で、東南アジア諸国は稲作に恵まれながらも豊かではない。また、日本国内でも、太平洋沿岸地域と日本海沿岸地域との間には格差がある。さらに、日本海沿岸地域のなかでも石油資源の発掘で発展した新潟県と秋田県だが、現在の様子はかなり異なる。長岡市は日本で6番目の地方機械金属の集積地であるが、秋田市は機械工業の集積はあまり見られない。本講座は、スイスの事例、東南アジアの事例、長岡と秋田の事例を紹介することで、勉強も部活も自分の長所を活かした独自の方法でやっていくことを勧めるためのものである。

テーマNo.2	悩み解消への第一歩！
内 容	花のつぼみから花が咲くまでを観察すると、実に命と自然の神秘さをわずかながら体験することができる。そして、人間だれもが命を持っている綺麗な花であり、その花々に良いのも悪いのもないことに気付く。 ところで、魚も鳥も、また、陸上動物もその口の形はとがっている。例外は人間だけである。なぜ、人間の口の形だけが他の動物と異なるのだろうか。おそらく、直立歩行をすることで両手が使えたことが大きな原因だと考えられる。その理由はとにかく、人間は他の動物同様、飢えを解決するために暗い森の中をうろうろしなくてもよい。動物は食べることや逃げることに必死になり、一生を過ごす。我々人間の多くはこの2つの大問題から解放されている。しかし、この事実に対する安堵の気持ちはほとんどの人が持たない。人間として生まれたことに疑問もなければ感謝もないからである。 さまざまな知識を習得することも大事だが、その前に‘自分が神秘的な命を持っている綺麗な花であること’や、‘人間として生まれたことに気づく、感謝すること’が幸せへの第一歩ではないだろうか。これに気付けば日ごろの悩みは少しは軽くなるだろう。

テーマNo.3	十分杯から幸せになる道を学ぶ。 —他人と自分との違いを認め合う—
内 容	「幸せ」の反対語を「怒り」として捉えて話を進める。人は怒った後は大概後悔するが、なぜだろうか。怒らないわけにはいかないだろうか。この問いに対する答えを、江戸時代から長岡藩に伝わる「十分杯」という不思議な杯を持って紐解いていく。自信過剰、世間知らずがもたらす怒りを、「足を知る」という教訓を持っている十分杯を知り、「他人と自分との違いを認め合う」ことで残りの人生を幸せにしていこう。